

# News Letter vol.51 2012.9.20

## エジンバラ大学英国バイオチャー研究センターでの研究と生活

派遣先国：連合王国 (United Kingdom)  
受入機関：University of Edinburgh, UK Biochar Research Centre  
派遣期間：2012.6.1～2012.8.31

私は、組織的な若手研究者等海外派遣プログラムの支援を受け、連合王国のエジンバラにあるエジンバラ大学に設置された英国バイオチャー研究センター(UK Biochar Research Centre, UKBRC)に平成 24 年 5 月 31 日から平成 24 年 9 月 4 日まで約 3 ヶ月間滞在し Prof. Saran Sohi と Prof. Ondrej Masek の研究グループのもとで、研究を行いました。

\* \* \*

研究の先見性が評価され、イギリス政府からの全面的な支援を受け立派な施設と多くの優秀な研究者が整備された UKBRC にはヨーロッパの各国から、ポスドクおよび博士課程学生など多くの研究者たちが訪問して私のようにバイオチャーの生産技術や分析などを行っていました。



UKBRC の研究者達

私も UKBRC で計画した廃おむつから製造されたバイオマス炭化物を担体として利用した新しい緩効性肥料の開発に関する研究だけではなく UKBRC で炭化物の評価のために開発された‘ツールキット(Toolkit)’というバイオチャーの分析技術を習得しました。

さらに現在、UKBRC で研究中の課題である様々な原料による バイオチャーの生産と応用、バイオチャーの標準化、土壌-作物とバイオチャーの相互作用、バイオチャーのライフサイクル評価(LCA)などの情報を得て世界的な研究動向を把握することが出来ました。

UKBRC のあるスコットランドは真夏にも気温が 20℃以下になる日が大部分で、蒸暑い日本の夏と比べ研究と生活するのに良い条件でした。

\* \* \*



快適で過ごしやすいスコットランドの夏

今後は今回の UKBRC での派遣で得た知識と経験に基づいて先端的なバイオチャーの利用研究を推進し、研究能力・国際競争力の向上を図ると共に優秀な UKBRC の研究者たちと九大内のバイオチャー研究グループ(凌教授)と持続的な研究交流することにより、日英のバイオチャー関連の教育研究交流が促進されるように力をつくしたいです。

最後に、本派遣事業においてご支援いただきました凌先生と環境農学部門 生産環境科学分野の先生方や藤原様を含めた農学研究院(農学部)の多くの方々に心から深く御礼申し上げます。